

(株)ウィンズエンターテインメント  
代表取締役

PICK UP

## THE PERSON

# 渡辺 克己

KEY WORD

夢

— yume —

音楽に夢中になり、プロのミュージシャンを夢見る人は多いだろう。  
渡辺社長もその1人として、ドラムに熱中して努力を続けた結果、  
見事に夢を叶え、プロとして仕事を得るようになった。

そして現在、かつての自身と同じように、

「音楽」という夢を追いかける人を応援することに力を入れている。

たとえ才能がある人でも、きっかけがなければ目の目を見ることはない。

そうしたダイヤの原石を一人でも多く見つけ、夢の実現に導きたい——

その思いで、プレイヤーとして、講師として、経営者として、サポートを続ける。



「レッスン、ライブ、レコーディング——  
音楽に関して幅広くサポートしたいです」





代表取締役

## 渡辺 克己

千葉県出身。少年時代はサッカーに打ち込み、高校の部活動引退後、友人の誘いでバンド活動をスタート。ボーカルからドラムに転向したことを機に本格的にのめり込み、やがてプロドラマーとして活動するようになった。現在は音楽教室とライブハウス運営も手掛けている。

—— 渡辺社長は、いつから音楽をされているのでしょうか。  
高校の部活動を引退してからです。それまではサッカー少年でした。友人からの誘いでバンドに入ったのがきっかけで、楽器がでなかったたので、初めはボーカルだったんです。でも別に歌は上手くないし、歌っていても特別楽しくないし(笑)。それでドラムに転向したら面白くて、20歳になった時には本気でプロを目指すようになっていました。  
—— 10代からプロを志す人が多い業界でしょうから、少し遅めですね。  
そうですね。それは自覚していたので、早く上達するためにはとにかく経験を積みしかないと、いくつものバンドを掛け持ちしました。実力不足で怒られることもしょっちゅうでしたが、ドラマーが少ないせいか、色んなところに入れていただけなんです。最大で、7つのバンドを掛け持っていたこともあり、20歳からの数年は本当に音楽漬けの日々でした。  
—— その期間に、大きく伸びられたわけですね。  
はい。そして、25歳の時に初めてプロとして仕事をいただきました。お世話になっていた音楽事務所の方から「タレントのバツ

### Commemorative Photo



—— プロからマンツーマンで教えてもらえるというのは良いですね。  
そこが売りの一つですね。よくあるグループレッスンとは違い、個々の目標や技量に合わせて教えることができます。お陰様で、最年少は3歳から、年配の方では70歳以上の方まで、幅広い年齢の生徒さんに恵まれています。遠くは北海道など、遠方からわざわざ通って下さる方もいるんですよ。「どうしてもこの講師から習いたい」ということで来て下さっているから、本当にありがたいことです。  
—— それだけ選ばれる音楽教室だということですね。先ほどおっしゃった、「出口」という点では他にどのような取り組みをされていますか。  
当社の関連会社でライブハウスを立ち上げました。現在「shinjuku SAMURAI」と「LiveSpace 早稲田 RiNen」の2店舗があります。プロも含めて様々なアーティストが出演していますよ。音楽教室でレッスンして上達していけば、人前で演奏してみたくなるもの

クバンドで叩いてみないか」と声を掛けていただいたんです。そこからプロドラマーとしてのキャリアをスタートして、現在まで約20年ですね。様々なアーティストのツアーやイベントに参加するほか、レコーディングで叩くこともあります。それぞれに味があるので私としても日々勉強ですし、楽しいです。私は色々な人とやっていきたいと考えているので、特定のアーティストにはこだわっていません。  
—— ジャンルはどのようなものが多いのでしょうか。  
アイドルやソロアーティストのバックバンドで、ロックやポップスが多いですね。ホテルのディナーショーやハコバンでも演奏しますし、その中で沖縄民謡の仕事をききたこともあります。どんなジャンルや現場でも叩けるドラマーでありたいと思っていますし、依頼があればそこから練習して自身の成長につながりますから、ジャンルは問いません。  
—— すごいなあ、さすがはプロですね。現在では経営者としても活躍されていますが、こちらは？  
私はドラムスクールの講師もしていたのですが、そちらでは教えることだけに特化していたので、出口が用意されていませ

### check Point 充実した環境から次世代を担うミュージシャンを

□「音楽教室の出口の一つ」として渡辺社長が立ち上げた「shinjuku SAMURAI」。収容人数はスタンディングで150名と小さめのキャバながら、新宿歌舞伎町という好立地だ。椅子を出した場合は60名前後で、座りながら落ち着いて聴くようなイベントにも向いている。機材はギターアンプなら、「JC-120」「JCM900」などの定番はもちろん、数々のミュージシャンに愛されてきた『FENDER』が誇る往年の名器「'65 TWIN REVERB」など、様々な人の好みやジャンルに対応できるものが揃っている。

□2018年4月には、もう1店舗「LiveSpace 早稲田 RiNen」もオープンした。こちらは「多目的型ライブスペース」を謳っており、音楽ライブはもちろん、トークライブ、上映イベント、パーティーなどで利用可能。バーメニューが充実しているため、お酒メインで楽しむのもいいだろう。早稲田と言えば、『早稲田大学』からは聖飢魔II、真心ブラザーズ、RHYMESTER、亀田誠治など、数々の個性的なバンドやミュージシャンが生まれている。そんな音楽の盛んな地でオープンした同店から、業界の未来を照らすミュージシャンが生まれるかもしれない。

## 株式会社 ウィンズエンターテインメント

東京都世田谷区奥沢 5-1-16 奥沢駅前ビル B1

渡辺 克己 | 代表取締役 |



志垣 太郎 | 俳優 |

—— 渡辺社長は、いつから音楽をされているのでしょうか。  
高校の部活動を引退してからです。それまではサッカー少年でした。友人からの誘いでバンドに入ったのがきっかけで、楽器がでなかったたので、初めはボーカルだったんです。でも別に歌は上手くないし、歌っていても特別楽しくないし(笑)。それでドラムに転向したら面白くて、20歳になった時には本気でプロを目指すようになっていました。  
—— 10代からプロを志す人が多い業界でしょうから、少し遅めですね。  
そうですね。それは自覚していたので、早く上達するためにはとにかく経験を積みしかないと、いくつものバンドを掛け持ちしました。実力不足で怒られることもしょっちゅうでしたが、ドラマーが少ないせいか、色んなところに入れていただけなんです。最大で、7つのバンドを掛け持っていたこともあり、20歳からの数年は本当に音楽漬けの日々でした。  
—— その期間に、大きく伸びられたわけですね。  
はい。そして、25歳の時に初めてプロとして仕事をいただきました。お世話になっていた音楽事務所の方から「タレントのバツ

クバンドで叩いてみないか」と声を掛けていただいたんです。そこからプロドラマーとしてのキャリアをスタートして、現在まで約20年ですね。様々なアーティストのツアーやイベントに参加するほか、レコーディングで叩くこともあります。それぞれに味があるので私としても日々勉強ですし、楽しいです。私は色々な人とやっていきたいと考えているので、特定のアーティストにはこだわっていません。  
—— ジャンルはどのようなものが多いのでしょうか。  
アイドルやソロアーティストのバックバンドで、ロックやポップスが多いですね。ホテルのディナーショーやハコバンでも演奏しますし、その中で沖縄民謡の仕事をききたこともあります。どんなジャンルや現場でも叩けるドラマーでありたいと思っていますし、依頼があればそこから練習して自身の成長につながりますから、ジャンルは問いません。  
—— すごいなあ、さすがはプロですね。現在では経営者としても活躍されていますが、こちらは？  
私はドラムスクールの講師もしていたのですが、そちらでは教えることだけに特化していたので、出口が用意されていませ

## 志垣 太郎

(俳優)

guest comment

「CDがあまり売れない時代となり、音楽の楽しみ方はどんどんデジタルな方面に進んでいます。それでも、実際に自分が演奏する楽しさやライブを見た時の感動など、生の音に触れることの魅力は何ものにも代え難いでしょう。そうした音楽の素晴らしさを多くの人に伝えるという意味でも、渡辺社長の各種取り組みは非常に意義深いですね。ますますのご活躍、期待しています！」



# 音楽を愛する人のために、あらゆる方面から活動をサポート

東京都内で音楽教室やライブハウスの運営を手掛けている『ウィンズエンターテインメント』。音楽教室においては、実績のあるプロのミュージシャンからマンツーマンで指導を受けられると評判で、遠方からも通う人が絶えない。本日は志垣太郎氏が、同社の渡辺社長にインタビューを行った。